

# 否定に関わる逸脱表現の考察

——J ポップの歌詞を題材に——

## On Grammatical Deviation of Negation and Other Related Expressions in Japanese: Implications from J-pop Lyrics

野 田 春 美  
NODA Harumi

### 1. はじめに

J ポップの歌詞には、通常の文法規則や語の使い分けの規則を逸脱した表現がしばしば現れる。いわゆる「ら抜き言葉」のように変化の途上にある形式が歌詞にも表れるケースに加え、次のような要因も関係していることを野田（2021）で述べた。

- (1) a. メロディ、リズム、韻、響きを優先するための、拍数の調整や表現の選択もあると考えられる。
- b. 印象を強くすることを狙った逸脱表現の使用もあると考えられる。 (p.69)

野田（2020）では歌詞における格助詞の非標準的な使用を取り上げたが、本稿では否定に関わる逸脱表現を考察の対象とする。格助詞の場合は本来「を」が使われるべきところに「に」が使われているといった例が多かった。否定の場合は、そもそも形式の種類が格助詞のように多くないこと、肯定か否定かで文の意味がまったく異なることから、出現する逸脱表現の種類は格助詞の場合とはかなり異なる。

本稿では否定に関わる逸脱表現を幅広く取り上げ、現代日本語の否定に関して、どのような逸脱表現が生じているのか、なぜ生じるのかを考察する<sup>1)</sup>。

### 2. 研究の対象と本稿の構成

本稿では、明らかな誤用だけでなく、通常の使用としては多少違和感があるといった程度の例も

取り上げる。

一部の表現については、現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、略称である BCCWJ と記す）を用い、歌詞以外での出現状況を調査する<sup>2)</sup>。

以下の構成は次のとおりである。

3. 否定の形に関する逸脱
4. 「ず」に関する逸脱
5. 副詞と否定の呼応に関する逸脱
6. とりたて助詞と否定の共起に関する逸脱
7. アスペクト表現と否定の共起に関する逸脱
8. おわりに

### 3. 否定の形に関する逸脱

まず、活用しないはずの語が否定形のような形になっている例を見る。ナ形容詞「大丈夫」が動詞のように活用した「だいじょばない」である。「大丈夫ではない」という意味が短く表されている。「大丈夫ではない」状況を深刻にならないよう軽く表現しているようにも見える。

- (2) 誰も愛さない そう決めていたのに 不意に胸が ときめいたり  
 大丈夫と言って だいじょばないことを  
 抱えきれず 涙に変えてきた (「GRAVITY 0」、歌：Aqua Times、詞：太志)<sup>3)</sup>
- (3) 未読にした 美学でよかった  
だいじょばないって言えた程  
 些細な痛み 割り切ったけど  
 (「暗く黒く」、歌：ずっと真夜中でいいのに。、詞：ACA ね)

「だいじょばない」はゲームから生じた表現のようである。歌詞としては、そのものをタイトルにした「だいじょばない」（歌：Perfume、詞：中田ヤスタカ、2013）が知られているが、(2) として挙げた「GRAVITY 0」のほうが早く、2010 年である、(3) のような 2020 年代の歌詞にも表れている。

動詞以外の語を動詞化させた語は若者言葉にしばしば見られるが、「る」の付加によることが多い。若者言葉の研究である堀尾（2022）では、動詞化接辞「-る」によって作られた語が 483 語収集されたことが報告されている。「ご馳る」「コピる」のようなものである。歌詞にも次のような例がある。名詞「麻痺」に「る」のついた形である。

- (4) ドブプリ浸かるまで 時間はかかりません  
 要は素敵に 夜毎 麻痺る (「汚れた指」、歌：シド、詞：マオ)

「る」の付加による動詞化が多いなか、「だいじょばない」は、「だいじょうぶ」の語末がウ段であることを活かしてバ行で五段活用させている点で珍しい。「う」が脱落するのは、語呂のよさを求めてのことであろう。否定以外の「だいじょびます」のような活用形は見当たらなかった<sup>4)</sup>。

次に、慣用的な表現において否定辞が脱落している例を挙げる。次の(5)は「止めどなく」の「なく」が脱落したものと考えられる。

(5) 止めど流る清か水よ 消せど燃ゆる魔性の火よ

(「TSUNAMI」、歌：サザンオールスターズ、詞：桑田佳祐)

(5)は「止めど流る」「消せど燃ゆる」という対句になっており、「止めても流れる」「消しても燃える」という意味である可能性も考えられる。野田(2021)で述べたようにJポップの歌詞では雰囲気を出すために古い表現が使われることがあるので、「止めても」の意味で「止むれど」といった表現にしようとした可能性である。しかし「清か水」という後文脈を考えると「止めどなく」の「なく」の脱落だと考えるほうが自然であろう。

「止め<sup>と</sup>処」は、「止め処(も)なく」「止め処がない」といった形で際限のないことを表す。常に否定と共に用いられるため、「止めど」だけでも「止めどなく」の意だと解釈されやすいのだと考えられる。これは、「なにげなく」から「なにげに」という表現が生じたことと類似している<sup>5)</sup>。

なお、(5)は2000年発表の曲だが、似た例は、1969年発表の(6)にも見られる。

(6) さびしさだけが じっとしてる

止めど流るる涙に 一つ一つの 思い出だけが

(「今はもうだれも」、歌：ウッディ・ウー、詞：佐竹俊郎)

(6)は流れるのが「涙」であり、「止めても」の意味で使われている可能性が高いように思われるが、「止めどなく」の「なく」の脱落という可能性もある。

#### 4. 「ず」に関する逸脱

「ず」は「ない」と同じく否定を表すが、現代語では使用は限定的である。「～べからず」のような慣用表現として使われるほか、「～ず(に)、～」という従属節末の用法もある。

3. でも述べたように、Jポップの歌詞では雰囲気を出すために古い表現が選ばれることがあり、「ず」も好まれる。「ず」に関する逸脱表現は多様なので、以下、名詞修飾における逸脱、「に」などの脱落に関する逸脱、「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けに関する逸脱に分けて見ていく。

##### 4.1 名詞修飾における逸脱

まず、次の(7)は、「ず」の連体形として「ぬ」を使うべきところが「ず」のままになっている

という単純な逸脱である。

- (7) 白い影が消えては映す ガラスの赤い光  
 溢れる想いは隠せずままに 手に触れる勇気があれば  
 少し近くにゆきたい (「ナキ・ムシ」、歌：aiko、詞：AIKO)

次の(8)は、もう少し複雑である。一見、「言えずの」を「言えぬ」という連体形にすればよいように見えるが、それでは「ずっと言えなかった」「ずっと言えずにいた」という事態の継続の意味が表されない。そういった意味を簡潔に表わそうとして、「ずっと言えずの」という表現になっているものと考えられる。「～ずの」という形自体は「開かずの扉」「寝ずの番」のような慣用句で使われるため、違和感もあまりないのであろう。

- (8) 徹夜で作ったテープ 渡したかったから  
 夜道をバイクでとばし 君に会いに行った  
 ずっと言えずの言葉を 託した曲達も  
 長い旅の退屈しのぎに なればそれでいい (「LOVE LETTER」、歌・詞：槇原敬之)

「言えずの」という表現は他の歌詞にも見られる。

- (9) 今も言えずの I Like You 君に触れたい I Need You  
 (「言えずのアイ・ライク・ユー」、歌：ゆず、詞：北川悠仁)  
 (10) 言えずの “ごめんね” が胸につっかえてる (「冬恋」、歌：関ジャニ∞、詞：田中秀典)

BCCWJ で文字列検索を行ったが「言えずの」は1例もなかったので、歌詞に特有の出現である可能性がある。3. で見た「止めど流(る)る」もそうだが、J ポップにおいては、一度使われた逸脱表現がその後も受け継がれるようにして使われることがあるようである。

#### 4.2 「に」などの脱落に関する逸脱

次の(11)～(13)は、標準的には「～ずにいた」となるべきところが、「に」が脱落して「～ずいた」になっているものである。多少違和感があるが逸脱というほどではなく、例も多い。メロディやリズムに載せるために「に」が省かれているケースもあると思われる。

- (11) 温もりを手にするに慣れてなかった  
 いつかくる「もしも」に恐れ動けずいた (「MASSIVE WONDERS」、歌・詞：水樹奈々)  
 (12) つめをかんでたあの日 口に出せずいたのか つらい別れ話を  
 (「今日の雨」、歌：矢沢永吉、詞：木原敏雄)

- (13) 瞳のファインダー 濡らしていたコトにも

ボクは気づかずいたなんて…ね ホントにバカだね

(「snapshot」、歌：KinKi Kids、詞：Satomi)

BCCWJ での文字列検索の結果、「動けずい(る)」の例はなく、「動けずにい(る)」は9例、「出せずい(る)」の例はなく、「出せずにい(る)」は25例あった。「思い出せずにて」などの例である。「気づかずい(る)」は次の(14)の1例、「気づかずにい(る)」は32例であった<sup>6)</sup>。コーパス調査の結果を見ると「に」の脱落は稀であり、歌詞に現れやすいのだと考えられる。

- (14) しかし、上野村のようなこういう汚れない天地というものは少ないと思う。それを案外、気づかずいて平気で打ち壊している面があると思います。

(黒澤丈夫『わが道これを貫く』上毛新聞社出版局、2005)

次の(15)の「忘れずにありがとう」は、「忘れずにいてくれてありがとう」という意味であり、「いてくれて」のような語句の脱落だと考えられる。

- (15) いっしょにすべる約束を忘れずにありがとう (「雪だより」、歌：詞：松任谷由実)

野田(2021)で述べたように、J ポップの歌詞ではメロディにのせるためなどの理由で、通常はなされないような省略が行われる場合があり、(15)もその一例と言えよう。

#### 4.3 「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けに関する逸脱

「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けは複雑である。日本語記述文法研究会(編)(2007)によると、補助動詞・補助形容詞に続く用法では、次の(16)のような使い分けがある。

- (16) ・「ている」「ていく」「てくる」「ておく」では、「ないで」「ずに」が用いられ、「なくて」は用いられない。

・「てやる」「てあげる」「てくれる」「てもらう」「てほしい」では、「ないで」が用いられ、「なくて」「ずに」は用いられない。  
(p.229 より抜粋)

次の(17)では「ずにほしい」という形が使われているが、(16)にあるとおり、「寄らないでほしい」が自然である。

- (17) 五番街でうわさをきいて もしも嫁に行って

今がともしあわせなら 寄らずにほしい

(「五番街のマリーへ」、歌：ペドロ&カプリシャス、詞：阿久悠)

「ずにほしい」は BCCWJ の文字列検索では例がなかったが、歌詞においても他の例は見当たらないため、特に歌詞に出現しやすい表現というわけではなさそうである。

次の (18) の「言わずにいい」は、「言わなくていい」がもっとも自然であり、「言わないでいい」も可能であろう。「ずにいい」には違和感がある。BCCWJ の文字列検索では (19) の 1 例があったが、話し言葉に近い表現が現れやすい Yahoo! 知恵袋での出現であり、一般的ではないと思われる。

(18) でもさよならは まだ 言わずにいいでしょう

向うのステーション・ホテルから 電話をするから

(「フェリー埠頭」、歌・詞：さだまさし)

(19) 連絡が翌日になるかもしれないとなんらかで知らせとけば、出品者もメールだけして待たずにいいですし、落札者もくるかこないかわからないメールを待たなくても良くなりますよ。

(Yahoo! 知恵袋 2005)

節末における「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けも複雑である。日本語記述文法研究会(編)(2007)によると、テ形による節のおもな用法(並立、付帯状況、継起、原因・理由、逆接)のうち、原因・理由の用法では「なくて」が用いられ、「ずに」「ないで」は用いにくいという。

次の (20) は原因・理由と考えられるため、「ずに」よりも「なくて」のほうが自然である。

(20) キャロルを口づさめば わけもないなつかしさを 伝えたくなるから

町の誰かにカードを書くけど 素敵な言葉がうかばずに 目を閉じる

(「ロッジで待つクリスマス」、歌・詞：松任谷由実)

「ずに」ではないが関連する例として、次の (21) では「ないで」より「なくて」のほうが自然である。言いさし文だが、話題を思いつけないから連絡ができないという因果関係があるため、「なくて」のほうが自然に感じられる。

(21) 暗い部屋の隅 ほんやり光る 液晶に浮ぶ 君のアドレス

夜更け過ぎに話すほどの特別な話題など

昨日までも今日からも僕には思いつけないで

(「ライン」、歌：ポルノグラフィティ、詞：新藤晴一)

野田(2021)で、文法規則や語の使い分けの規則が複雑な場合には逸脱表現が生じやすいと述べたが、「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けに関する逸脱にも当てはまることである。

## 5. 副詞と否定の呼応に関する逸脱

副詞や副詞的表現のなかには「決して～ない」「二度と～ない」のように否定述語と呼応するものがある。歌詞では、その呼応が乱れている例が見られる。次の(22)のような例である。

- (22) 君の未来を壊してしまいそうで怖かったんだ  
私と過ごす日々の中で  
寝たふりの私にキス残してく 優しさも全部  
もう二度と 途切れさせた想い 胸に秘めて… (「Rain」、歌・詞：倅田來未)

(22) では、「もう二度と」に呼応する否定述語がないままに、「途切れさせた想い 胸に秘めて」が続いている。「優しさなどにも、もう二度と触れられない」といった想いであろうが、語られていない。この少し後に同じメロディで「もう二度といつものわがままも言えないんだね」という歌詞があるので、「もう二度と」はそれと揃えて使われているのだと考えられる。

次の(23)では、「決して」のあとに「居なく(なる)」という否定述語はあるが、呼応は整っていない。「けっして」は、「けっして許されない」「けっして言いません」のように完全否定の判断を表す副詞である。(23)では否定述語が文末ではない「～なる(前に)」という位置に表れている点で不自然であり、何に対して完全否定の判断を下しているのかが読み取りづらい。

- (23) きっと夢は醒めない この世界をとめて  
決して君が傍に居なくなる前に  
Kiss Me 壊れそうなくらい甘く接吻で (「Killing Me」、歌：L'Arc～en～Ciel、詞：hyde)

次の(24)では、「決してまちがっていない」という呼応は整っている。ただし、「決して」を含んだ形で疑問文にするのは不自然である。「俺は決してまちがっていない」という判断が正しいか否かという疑問を簡潔に表そうとしてこの形になったものと考えられる。

- (24) 俺はまだ馬鹿と呼ばれているか  
俺はまだまだ恨まれているか  
俺に愛される資格はあるか  
俺は決してまちがっていないか (「シェリー」、歌・詞：尾崎豊)

## 6. とりたて助詞と否定の共起に関する逸脱

とりたて助詞と否定が共起する文における逸脱表現もある。次の(25)では「しか～ない」が使

われているが、つながりが不自然に感じられる。

- (25) よりそいあって暮らすことが あなたのためにはならないこともある  
 しでかして来た過ぎた日々が 私を許しはしないらしい  
 今日までの愛情に報いて 出来ることはただひとつ  
突然の裏切りと見えるしかなくとも  
 もう逢わない もう呼ばない あなたと他人になるわ

(「愛情物語」、歌・詞：中島みゆき)

(25) は「突然の裏切りと見えて(しまって)も」といった表現が適切であり、そこに「そうすることしかできない」という想いが加わったものではないだろうか。

否定表現は、対比を表す「は」と共に用いられることも多い。次の(26)では、「他の誰か」が「あなた」と対比されており、「他の誰かには」としたほうが自然である。

- (26) 絶望や諦観がどれほどの痛みを生むのか  
他の誰かにわからない あなただけが正しさを持っている

(「WOODEN DOLL」、歌・詞：Kenshi Yonezu)

次の(27)では動作の実行が許容されないことを表す「てはいけない」の「は」が脱落して「ていけない」になっている。くだけた話し言葉では「忘れちゃいけない」となるが、「ていけない」の形は一般的ではないだろう。

- (27) ちゃんと明日があるのなら 今日は終わらせないといけない  
忘れていけない事を抱いて今夜眠ろう (「向かいあわせ」、歌：aiko、詞：AIKO)

ただし、BCCWJの文字列検索では「忘れていけな(い)」が3例あった。次のような例である。

- (28) それともう一つ、忘れていけないのが、我々、料理に携わる者は筋肉労働者であるという  
 ことである。 (辻静雄『辻静雄コレクション』筑摩書房、2004)

他の例は、Yahoo! ブログに1件、翻訳小説に1件であった。いずれも文末ではなく、「忘れていけないことは」「忘れていけないのは」というように「～の」「～こと」の前に現れる形である。歌詞に現れた(27)も同様である。

「は」を含む表現は、名詞修飾などの場合に「は」が落ちることがある。たとえば、名詞述語の否定は「高額ではない」のような「ではない」の形が標準的だが、名詞修飾のなかでは「高額でない理由」のように「でない」という形も現れやすい。(27)(28)で見た「てはいけない」の「は」



の脱落も同様の環境で生じたものと考えられるが、「～でない [名詞]」よりも違和感がある。

## 7. アスペクト表現と否定の共起に関する逸脱

最後に、アスペクト表現と否定の共起に関する逸脱の例を見る。次の(29)(30)は「もうすぐ～いなくなる」「だんだんはなくなる」となるべきところだが、「くなる」が脱落している。

- (29) ちっとも変わっていない ちっとも憎んでいない  
もうすぐここにはいない  
 短く燃えた 雨のファイヤーフライ (「ホテルと流れ星」、歌・詞：松任谷由実)
- (30) 階段をかけのぼって ヒールもだんだんはかない  
 アドレスのデータもほとんど 使わない人ばかりになる  
 (「Precious Memories」、歌：globe、詞：小室哲哉)

(29)は直前に「～いない、～いない」というフレーズが同じ拍数、似たメロディで続いているので、それらと揃えている可能性が大きい。また、この歌は「これが最後のデートね」で始まる別れの歌である。「もうすぐここにはいなくなる」とすると文法的には正しくなるが、客観的な描写となり、「いない」という事実に対する切実な印象が薄れるようにも思われる。

なお、この逸脱は基本的には否定の問題ではなく、状態性述語に関わる問題である。したがって、否定を含まない次の(31)も同じタイプの逸脱である。

- (31) セメント積んだ 倉庫のかげで  
 ひざをかかえる あなたは急に幼い  
 だから短い キスをあげるよ (「埠頭を渡る風」、歌・詞：松任谷由実)

(31)もメロディに合わせて短くしているということが、まず考えられる。加えて、「急に幼くなる」「急に幼く見える」といった整った客観的な描写よりも、「幼い」と表現することでの臨場感も狙ったものではないかと思われる。

## 8. おわりに

最後に、本稿で取り上げた逸脱表現と、野田(2021)に示した(32)の6つの観点との関係を整理しておく。複合的な要因が関係するケースも多いため、おおまかな関係を見るにとどめる。

- (32) a. 規則に原因がある逸脱表現  
 b. 短く表現しようとした逸脱表現

- c. 使用頻度が少ないため逸脱に気づきにくい表現
- d. 感情のままに綴った（かのような）逸脱表現
- e. 雰囲気を出す逸脱表現
- f. メロディにのせる逸脱表現

「3. 否定の形に関する逸脱」で見た「だいじょばない」は言葉遊びという性格が強く b. に関係するが、若者言葉の雰囲気という意味では e. にも関係する。「とめど流（る）る」は、b. と c. と e. と f. に関係している。

「4. 「ず」に関する逸脱」は、古い表現で雰囲気を出している例は e. に、「ずにいた」を「ずの」で表現している例や「ずに」の「に」の脱落は b. と f. に、「ずに」「ないで」「なくて」の使い分けに関する例は a. と b. と f. に関係している。

「5. 副詞と否定の呼応に関する逸脱」で見た呼応の乱れは d. に関係している。

「6. とりたて助詞と否定の共起に関する逸脱」の「突然の裏切りと見えるしかなくても」も d. に関係しているのであろう。「は」の脱落は、b. と f. に関係しているが、名詞修飾節という要因を見ると a. にも関係している。

「7. アスペクト表現と否定の共起に関する逸脱」の「くなる」の脱落は、b. と d. と f. に関係している。

このように、さまざまな要因によって否定に関する逸脱表現が生じている。J ポップの歌詞のなかで、「言えずの」のような逸脱表現が受け継がれていくというのも興味深い現象である。

## 付 記

本研究は、科学研究費（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）「話し言葉における使用実態調査に基づく日本語の否定表現の使用傾向の研究」（2018-2022 年度、課題番号 18K00630、研究代表者：野田春美）の成果の一部である。

## 注

- 1) 本稿は逸脱表現を観察するための資料として歌詞を用いており、作品を非難する意図はない。また、逸脱表現の使用の意図性は不明であり、考察のなかで意図についての記述もあるが、推測に過ぎない。
- 2) 現代日本語書き言葉均衡コーパスの検索には中納言 2.6.0 を用いた。データバージョン 2021.03 である。全データを検索対象としている。
- 3) 本稿で取り上げる例には、神戸学院大学の「言語文化入門」（2000～2016 年度）の受講生が収集した例を含む。野田（1996）（2002）（2020）（2021）で考察していない例を主な対象とする。紙幅の都合上、歌詞の改行箇所は原文と一致しないことがある。
- 4) 2022 年現在、人気アニメ『SPY×FAMILY』（原作漫画：遠藤達哉）のキャラクター、アーニャによる「だいじょ（う）ぶます」「がんばるます」の使用が話題になっている。「だいじょ（う）びます」のような五段活用をさせずに「ます」を接続させている点で、本稿の例とは異なる。
- 5) 「なにげに」の発生と意味変化については、新野（2011）が詳しい。
- 6) 「気付かず～」の表記も含めて調査している。

# 参考文献

- 新野直哉（2011）『現代日本語における進行中の変化の研究——「誤用」「気づかない変化」を中心に——』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会（編）（2007）『現代日本語文法3 第5部 アスペクト 第6部 テンス 第7部 肯定』くろしお出版
- 野田春美（1996）「歌詞における文法的逸脱」『園田語文』10、pp.83-80（(1)－(4)）、園田学園国文懇話会
- 野田春美（2002）「歌詞における文法的逸脱とその許容度」『人文学部紀要』22、pp.11-27、神戸学院大学人文学部
- 野田春美（2020）「格助詞の非標準的な使用の考察——J ポップの歌詞を題材に——」『人文学部紀要』40、pp.123-137、神戸学院大学人文学部
- 野田春美（2021）「J ポップの歌詞に見られる逸脱表現」金澤裕之・川端元子・森篤嗣（編）『日本語の乱れか変化か——これまでの日本語、これからの日本語——』pp.69-87、ひつじ書房
- 堀尾佳以（2022）『若者言葉の研究——SNS 時代の言語変化——』九州大学出版会